環境への配慮

大切な環境を守るための対策を具体的に検討して行きます

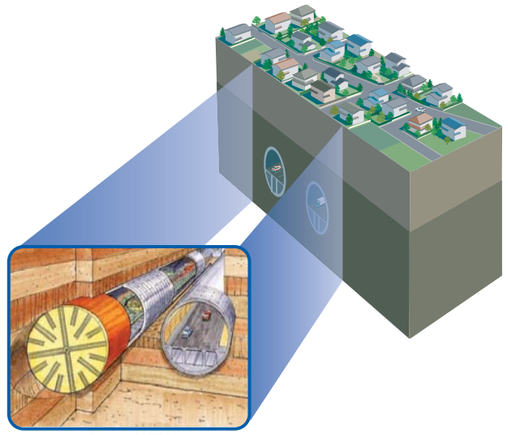
環境影響評価書では、環境要素18項目について予測及び評価が行われました。予測の結果、環境への影響は、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減しているものと評価されました。
今後は、環境影響評価書に記載した内容に従い、事業の進捗にあわせて事後調査を実施します。
なお、工事着手時の手続きとして、着工の報告及び事後調査を実施するための計画を知事に報告しています。

環境影響要因 / 予測・評価項目	完成後			工事中
	道路の存在	自動車の走行	換気所の存在又は供用	
大気質	—	●	●	●
騒音	—	●	●	●
振動	—	●	●	●
低周波音	—	●	●	—
水循環	●	—	●	●
地形及び地質	●	—	—	●
地盤沈下	●	—	●	●
日照阻害	●	—	●	—
電波障害	●	—	●	—
動物	●	—	—	●
植物（重要な種及び群落）	●	—	—	●
植物（緑の量）	●	—	—	—
生態系	●	—	—	●
景観（主要な眺望景観）	●	—	●	—
景観（市街地の地域景観）	●	—	●	—
史跡・文化財	●	—	—	—
人と自然との触れ合いの活動の場	●	—	—	—
廃棄物等	—	—	—	●

●：選定した項目

シールド工法の採用

シールドトンネルを採用することにより、地表の改変や自動車からの排出ガス、騒音、振動等が、沿道に与える影響を最小限に抑えます。



シールド工法

自動車からの影響

自動車の走行に伴う環境への影響を、下記に示すような環境保全措置により軽減します。

大気質・騒音

◎環境施設帯の設置による低減効果（距離減衰）と緑豊かな道路空間を創出。

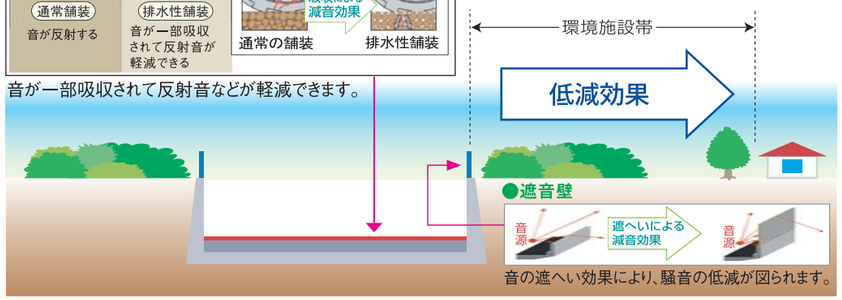
騒　音

◎遮音壁の設置による騒音低減
◎騒音低減効果の高い排水性舗装

●騒音低減効果のある舗装

●環境施設帯

環境施設帯の設置により、距離減衰による大気汚染、騒音および振動の低減効果が見込まれる他、緑豊かな道路空間が創出できます。



道路構造物（トンネル及び橋等）からの影響

トンネルや橋等の構造物に伴う施工中・完成後の環境への影響を、下記に示すような環境保全措置により軽減します。

水循環・地盤沈下

◎地下水流動保全工法の採用

動物・生態系

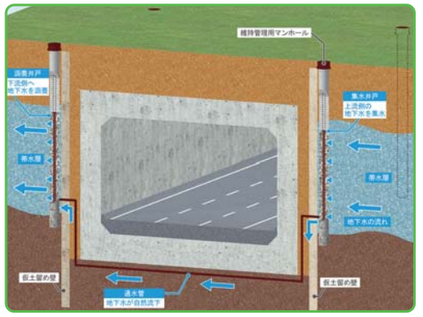
◎動物に配慮した夜間照明の適正配置、河川流量の確保、古巣の保全等

植物・生態系・人と自然との触れ合いの活動の場

◎水源の確保による水辺環境の整備、消失する生息・生育環境の代償等

景　観

◎景観に配慮したデザイン・色彩等



地下水流動保全工法の例（イメージ図）

換気所からの影響

トンネル内では、電気集じん機やジェットファンで環境保全対策を行います。換気所から排出する空気は、除じん装置により煤じんを極力除去し、十分な排気上昇高さを確保した上で、上空へと拡散させます。また、防振装置や消音装置により周辺環境への影響も低減します。換気所から排出される二酸化窒素（NO_2）と浮遊粒子状物質（SPM）の地表付近への影響は、環境基準値の数百分の一以下です。

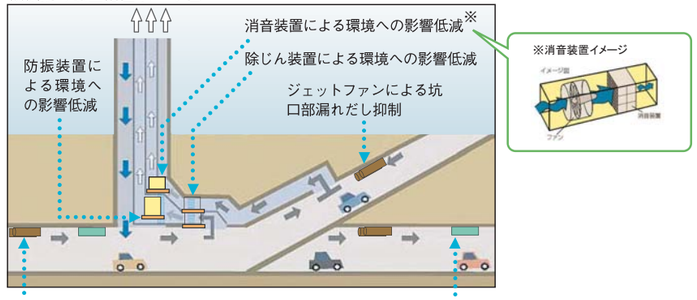
大気質・騒音

◎除じん装置、消音装置の設置

振　動

◎防振装置の設置

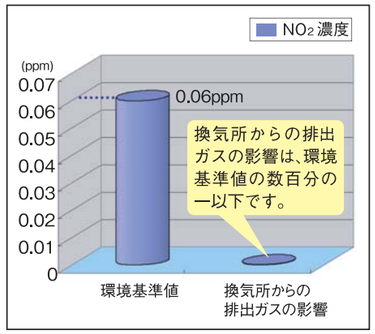
換気所の保全措置イメージ図



ジェットファンによるトンネル内の空気の流れの助長

トンネル内の空気中の煤じんを除去する電気集じん機

換気所からの影響（二酸化窒素）



除じん装置の例

ジェットファンの例